

# 競 技 注 意 事 項

1. 本大会に適用する競技規則は、2016年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則及び本大会の申し合わせ事項により実施する。

## 2. 練習場および練習について

練習は指定された練習会場を使用する。その他、競技役員の指示に従うこと。

(1) 練習は、下記の通り、本競技場および補助競技場を使用できる。

① 大会前日の8月12日(金)は9時から17時まで使用できる。ただし、補助競技場では、棒高跳と投てき練習は一切禁止とする。

② 本競技場の前日の投てき練習について

円盤投 10時～11時、12時～13時、14時～15時

やり投 11時～12時、13時～14時、15時～16時

砲丸投は第3曲走路付近のクレピットを終日使用できる。ハンマー投の練習は禁止とする。

練習の際は、監督・顧問が必ず立ち合い、その管理、指導のもと、事故防止に努めること。

③ 大会当日の本競技場での練習時間は、8月13日(土)7時～8時、8月14日(日)7時～8時30分とする。投てき練習は、ハンマー投を除き、競技当日の種目に限り認める。それ以外の時間は、補助競技場を使用すること。

④ 補助競技場は両日とも7時から17時まで開放する。ただし、棒高跳と投てき練習は一切禁止とする。

⑤ その他、練習要領を別に掲げるので、その内容を確認の上、使用すること。

## 3. 競技者の招集について

(1) 招集場所は競技場第1ゲート付近に設ける。

(2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、すべてその競技の開始時刻を基準とし、下記のとおりとする。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻	種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	25分前	15分前	棒 高 跳	70分前	60分前
フィールド競技	40分前	30分前			

(3) 招集方法

① 競技者は、競技者招集所付近に掲示した出場競技者一覧表に競技者または代理人がチェックする(○で囲む)。

② 競技者は、出場種目の招集開始時刻までには招集所に集合する。プログラム記載の招集開始時刻より点呼確認を始め、招集完了時刻には各競技場所へ移動を開始する。

③ 招集場所での点呼に不在だった競技者は、当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。

④ 代理人による招集所での点呼確認は原則認めない。他の種目と兼ねて出場する競技者は、その旨を競技者係に申し出て出場を確認する。

⑤ 当該競技を棄権する場合は、棄権届を競技者係に提出すること。

## 4. 競技場への入退場について

(1) 競技場への入場は、競技者係の誘導に従い、規律ある行動をすること。競技者以外はトラック、フィールドに立ち入ることはできない。また、本部前(メインスタンド下の通路)の通行は禁止とする。

(2) トラック競技出場者は、競技終了後、第2ゲートから退場する。

(3) フィールド競技出場者の退場は、当該競技役員・マーシャルの指示に従う。

## 5. ナンバーカードについて

(1) ナンバーカードは、交付された大きさのまま使用し、必ずユニフォームの胸背に確実に付けること。ただし跳躍競技の競技者は胸・背のいずれかで良い。

(2) トラック競技出場者は、腰ナンバーカードを招集所で受け取り、パンツ右側後方に付けること。フィニッシュ後、競技者係に返却すること。

(3) 3000m以上のトラック競技(競歩も含む)は、黄色のレーンナンバーカードを使用する。

## 6. 走路順・競技順について

(1) 予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順はプログラム記載どおりとする。

(2) 準決勝以降のトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は番組編成員で公正に抽選し決定する。トラック競技において、プラス進出者を決める場合、同タイム者についてレーンの余裕範囲内で次のラウンドに進めるが、余裕がない場合は判定写真を拡大し、細部(電気計時1/1000)まで読み取り着差を判定する。判定が不可能な場合は本人または代理人によって抽選する。

## 7. 競技について

(1) 不正スタートをした競技者は1回で失格とする。

(2) スタート時の不適切行為は注意が与えられる。

(3) 事故防止のため、短距離走ではフィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)を走ること。

(4) 長距離種目において、1組の競技者が多い場合は、グループスタートを行う。

(5) 少年共通男子5000mWと成年女子5000mW、少年A男子5000m1組と成年女子5000mは、競技運営上の理由から、男女同時スタートとする。

(6) 少年共通男子5000m、少年B男子3000mは決勝タイムレースで実施する。組み分けは申告された記録により、上位と下位で分ける。

- (7) 助力については、競技場内での助力は禁止とするが、コーチングエリアやスタンドからの助言については、競技運営や他の競技者の競技の妨げにならない範囲で認める。また、コーチングエリアにおいて、映像機器を競技者に見せることができるが、競技者に手渡したり、競技者が操作したりしてはいけない。ミュージックプレーヤー・携帯電話・スマートフォン等の電子通信機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- (8) トラック競技において、予選の棄権により、8名に満たない場合は、決勝の時間に行う。

#### 8. 競技規定および方法について

2016年度日本陸上競技連盟規則によるもの他は、次の通りとする。

- (1) 少年B男子110mHのハードルの高さは0.991m、ハードル間の距離は9.14mとする。
- (2) 少年B女子100mHのハードルの高さは0.762m、ハードル間の距離は8.5mとする
- (3) 少年B男子砲丸投の砲丸の重さは、5.00kgとする。
- (4) 少年B女子砲丸投の砲丸の重さは、4.00kgとする。
- (5) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

		練習	1	2	3	4	5	以降
走高跳	成年男子	1 m75	1 m80	1 m85	1 m90	1 m95	3 cm刻み	
	少年共通男子	1 m70	1 m75	1 m80	1 m85	1 m90	3 cm刻み	
	成年女子	1 m40	1 m45	1 m50	1 m55	3 cm刻み		
棒高跳	少年A男子	3 m60	3 m70	3 m80	3 m90	4 m00	以降10cm刻み	
	成年女子	2 m00	2 m20	2 m40	2 m60	以降10cm刻み		
	少年共通女子	2 m00	2 m20	2 m40	2 m60	以降10cm刻み		

※第1位決定のバーの上げ下げは、走高跳で2cm、棒高跳で5cmとする。

※天候その他の特殊条件によって変更する場合は、当該審判長が決定する。

#### 9. その他

- (1) 競技に使用する用器具は、全て主催者が用意したものを使用する。ただし、やりは検定を受けて通ったものを使用できる。また、棒高跳用ポールに限り個人所有のものを使用できる。
- (2) 表彰については、各種目8位までの入賞者に賞状を授与する。ただし、表彰は3位までとし、結果発表後、該当選手はエントランスホールにただちに集合すること。4位から8位までの賞状は、エントランスホールに賞状置き場を用意するので、各自受け取ること。
- (3) ケガや体調不良に関しては、医務員を配置し、応急処置のみ行う。
- (4) テントの設置場所について
- ① テントは、別に掲げられた決められた場所に設置すること。大会前日の設置や場所取りは一切禁止とする。なお、大会当日の場所取り（ロープなど）は認めるが、テント等は必ず撤収すること。また、テントは第3ゲート下物品庫に預けることはできるが、紛失・破損等があった場合の対応は一切できないので、注意すること。
  - ② 競技場裏スタンド下の場所取りは、競技場開放時間以降は認めるが、上記①と同様である。お互いに譲り合って使用すること。また、通路入口の設置は、通行の妨げとなるため、一切禁止する。
  - ③ 大会中の場所取り（ロープなど）は認めるが、テント等はすべて片付けること（置きっ放しはできない）。
  - ④ テントの設置には十分注意し、強風で飛ばされることのないようにすること。
- (5) ごみは各チーム、個人で持ち帰ること。
- (6) 貴重品の管理は各チーム、個人で責任を持って行うこと。